インターハイに出場して

弓道部　五十嵐　栄　斗

今年八月、男子弓道部は団体で鳥取県米子市の鳥取県立武道館で弓道のインターハイに出場しました。宮城県の代表チームというプレッシャーがありながらも期待で胸がいっぱいになっていました。

今年の六月に宮城県の総合体育大会がありました。予選では練習通りの的中を出し、一位で通過できました。そして決勝リーグへと進むことができました。そこでは、一敗してしまったものの三勝することができ、優勝しました。その結果、鳥取県開催のインターハイに臨むことになりました。インターハイの団体予選は上位三十二校のみが決勝トーナメントに進出できるということでした。私たちは二十本矢を放って十三本的中しました。予選の結果が出るまでチーム全員は落ち着かない様子でしたが、無事三十二校に入り通過することができました。その日は早めに宿に戻り就寝しました。

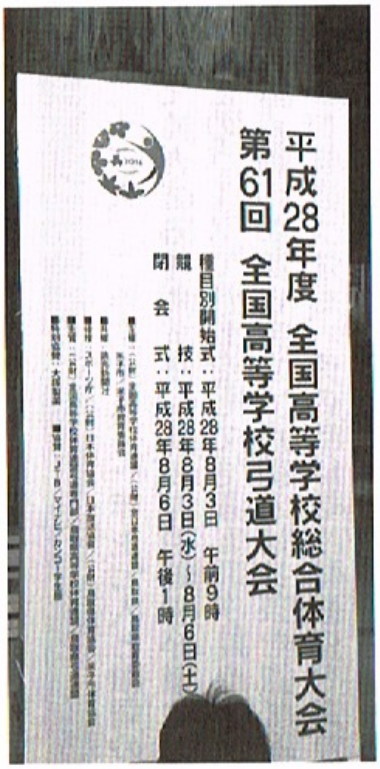
決勝トーナメント一回戦は、全国でも名の知れた高校と戦いました。私はその高校に強い憧れをいだいており、戦えることが嬉しかったです。そのせいか、緊張はなく、むしろ気を楽にしていられました。結果は、私たちは十二中で相手は十七中となり、全力を出したものの負けてしまいました。ここで私たちのインターハイは終わりました。

私たちが県総体からインターハイを通して学んだことは、仲間を信じることです。県総体では毎年あと一歩のところで負けていました。「今年こそは！」と自分で思っていても仲間と信じ合わなければ、どこかで崩れてしまいます。今年は全員が意思疎通し合って取れた優勝だと思います。そしてインターハイという大きな舞台で弓道ができたことも仲間と協力し合い、信じ合うことができたからだと思います。支えてくださったマネージャーや先生方にはとても感謝しています。後輩には恵まれた環境で弓道ができているということを忘れずに、これから頑張って欲しいです。

インターハイを終えて

弓道部　福　井　晴　菜

私は高校から弓道を始め、インターハイ出場という目標に向かって日々練習を重ねてきました。目標を達成できたのは三年生の夏です。

八月に鳥取県で行われたインターハイに宮城県代表として出場しました。会場はとても広く、今までの会場とは比べものにならないほどの緊張感を味わいました。雰囲気に圧倒されないよう会場に慣れるために練習し、先生方やマネージャーもたくさんサポートしてくれました。迎えた本番では、四本中三本中てるという条件に焦りがあり、一、二射目は思うようにいかず外してしまいました。三射目からは迷いが吹っきれ、今まで自分がやってきたことすべてを出し、三、四射目を中てました。予選敗退という結果で終わってしまいましたが、後悔はありません。最後に自分らしくできたこと、紅葉が自分のことのように泣いてくれて「かっこよかったよ。」と最後に言ってくれたことが嬉しかったです。

私がここまでこれたのは、ご指導してくださった先生方、ライバルでもあり、互いに支え合う仲間、設備の整った道場という恵まれた環境でできたからです。本当にありがとうございました。後輩のみなさんは、良い環境に感謝しつつ、今できることを精一杯頑張ってください。応援しています。